



まだまだ寒い日が続いていますが、2月3日は、暦の上では「立春」でした。「立つ」という言葉には、「新しい季節が始まる」という意味があります。だんだん、春らしさを感じられることでしょう。

2月28日はエッセイ記念日

エッセイストの元祖と言われるフランスの哲学者、ミシェル・ド・モンテーニュの誕生日が2月28日だったことが由来です。

❑『いのちの車窓から』 星野源：著

音楽家であり、俳優でもある星野源。この本は、そのどちらとも違う一面を感じられるエッセイです。紅白に初めて出ることになった時のこと。「恋」という曲の歌い出しができた時のこと。あのドラマの撮影の時のことなど。星野源の日常生活ですが、とても親近感を感じる作品です。

❑『反抗的人間 新潮世界文学49カミュⅡ』 アルベール・カミュ：著 佐藤朔 白井浩司：訳
コロナ禍で注目された小説『ペスト』の著者のエッセイです。反抗は全て否定ではなく、あるものを否定しつつ、他のものを肯定することで、偏っていないことであり、生命の運動そのものであると言います。

❑『サラダ好きのライオン 村上ラヂオ3』 村上春樹：文

村上春樹は、小説家として有名ですが、エッセイも数多く書いています。占い師をしていた時の話。アメリカで生活していた時の話。仕事関連の話など。その中でも、「濡れた床は滑る」の話はおすすめです。



今月は銀（シルバー）の書名本の紹介です。

童話集『銀のくじゃく』 安房直子：著

遠い南の島に一人の機織りがいました。ある男には緑の孔雀の旗を、その後やってきた四人の姫には、銀の孔雀を織って欲しいと言われます。両方の願いを叶えるため、機織りがしたことは？

『ナルニア国物語（4） 銀のいす』 C・S・ルイス：作

ナルニア国の創造主アスランにユースチスとジルが呼ばれ、行方不明のリリアン王子を探すよう言われます。二人は沼人と共に冒険の旅に出ます。

『銀色の青春』 志賀竜太郎：文 清水啓二：写真

左足の不自由な高校生の少女が、ハンデ・スキーの国際大会に出場するまでの話。脳性麻痺の少年が普通高校に通い、スキー5年目にして身障者のスキー大会に挑戦する話。どちらも勇気づけられる実話です。



本を探しています

家に持って帰って、返し忘れていた図書室の本はありませんか？ロッカーや机の中に入れたままになっている本はありませんか？

ラベルの貼ってある本を見かけたたら、図書室までお持ちください。

この本、読んでみませんか？（図書委員 加瀬剛壮さんおすすめ）

『ぼのぼのみたいに生きられたらいいのに』 キム・シンフェ：著

（自分は少し気を張りすぎていたのかもしれない。ぼのぼのに登場するキャラクター達のように生きられたらな）と思った。素直に泣き、笑い、気楽に生きる。そんなぼのぼの達も意外と人間のような苦労もしている。でも、暗くない。問題もいつの間にか解決している。自然体で過ごしている。そんな生き方を僕は見習いたいと思った。皆さんもこの本を読んで、一度考えを変えて、今までの自分を見つめ直してはいかがですか。

